

『もっと！！本野通信』 No.137

諫早市立本野小学校長 永 井 洋 ※今回は紙面でも配付しています



「修学旅行」で何を学ぶの？

「修学旅行」の変遷についていろいろ調べてみました。

- ①明治の初めごろに、今の高等学校や大学にあたる学校で始まり、長距離遠足などにルーツがある。基本は徒歩だった。
- ②いくつもの大戦があり、時代によって名称、形態は様々だったり、中止になったりしたようだが、「修学旅行」という名前が初めて登場したのは、明治21年である。
- ③戦後、昭和22年ごろから「社会科見学」として復活し、やがて高度経済成長期の中、遠方へ電車やバスで移動する形態に変わる。
- ④有名観光地を巡る形から、体験学習（スキー、農業、漁業、畜産など）や平和学習、歴史学習へと変化していく。
- ⑤近年は、少子化や価値観の多様性、旅行費の高騰から、近場の自然体験などに移行しつつある。

5・6年生にとっては初めての修学旅行です。学校を離れ、2日間見聞を広めます。「楽しく過ごしてほしい」というのは、親も教師も同じ願いです。しかし、「安全に、病気やけがなく、周りに迷惑をかけない」という大きな「めあて」があります。そこで、保護者の方にもいくつかご協力のお願いをします。

- ①旅行の2週間ほど前から、お子様の健康状態について注意深く観察してください。持病、服薬がある場合は事前にかかりつけの病院に相談ください。
- ②早寝早起き、朝ごはんを守り、生活のリズムをしっかりとつくってください。
- ③直前の体調がよくない場合は、無理をせず参加を見合わせてください、旅行途中での対応には限界がありますので、お迎えを依頼することもあります。

- ④服装や靴は、おろしたてのものではなく、着用しなれたものにしてください。着替えやタオルなどは、必要最小限にしましょう。
- ⑤新幹線、見学地、宿泊先、バスの中などその場その場でのルールやマナーが大切です。学校でも指導しますが、家庭でもこれらのことについては、十分にお話しいただけたらと思います。

最後に、「修学旅行」で学んでほしいことです。

- ①楽しく、心に残る「修学旅行」にするために大切なこと。
- ②なぜ、ルールやマナーが大切であるのかということ。
- ③見学地では、教科書で学べないことを3つ以上学ぶこと。
- ④「時を守り、場を整え、礼を尽くす」ということが大切だということ。
- ⑤感謝の心を忘れないこと。

先日、5・6年生保護者向けの説明会がありましたが、不明な点や不安な点は、早めに担任にご相談ください。たくさんの学びがある修学旅行になるようサポートしますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いします。

【1～4年生の保護者の方へ】

昨今の物価の高騰、児童数の減少から「修学旅行」の代金も年々上昇しています。本野小では、2年に1度、5・6年生の修学旅行を実施していますが、次回、つまり令和10年度以降は、児童数が2学年でも20名を割り込みます。そのために、一人当たりの代金も上がることが見込まれます。

そこで、今後の修学旅行の実施方法について、事前にアンケートを実施し、ご意見を伺いたいと思います。今年中に実施し、年明けに結果をお知らせします。

